

在此山故和禮此二字以音共追下者汝待取若不待取者必將殺汝云而以火燒似猪大石而轉落爾追下取時即於其石所燒著而死爾其御祖命哭患而參上于天請神產巢日之命時乃遣蜃貝比賣與蛤貝比賣令作活爾蜃貝比賣岐佐宜此三字以音集而蛤貝比賣持水而塗母乳汁者成麗壯夫訓壯夫云而出遊行

〔延喜式八祝詞〕鎮火祭

吾名能妹命波上津國ハツ所知能食倍志吾波下津國シタツ所知能申申氏石隱給氏與美津枚坂ヒラ爾至坐氏

所思久食吾名能妹命所知能食上津國爾心惡子乎生置氏來止奴宣氏返坐氏更生子水神匏川菜埴

山姬四種物乎生給氏此能心惡子乃心荒比留波水神匏埴山姬川菜乎持氏鎮奉止禮事教悟給支下略

〔古史傳四〕人の過りて火に焼れたる時など、瓠に水を汲て、その傷處を洗へば、速に痛を去るなどの事は、まゝ、爲る事なるを、生なる川菜の汁をもみ取て、火傷處に沃ぎかくれば、痛を去などは、予もまばく見たる驗なり、また此に就てなほ思ふに、種々の物に、各々某々の能ありて、病を直すをはじめ、互に相制かち相助て、功を爲すことは、都て神のまかくさくくに、性を賦おき給へるに依てなり、其は物ごとに其傳こそ無けれ、此なる傳、また第二十段に見えたる、伊邪那岐大神の、桃に勅たまへる御言に、汝如助我云々、青人草之云々、將惚苦時可助と詔へるまに、桃の惡鬼を避る功ある事などを思ひ合せ、准へて悟るべし、さて川苔は、水田などに生る物にて、俗に多くはヒルモと云へり、

〔志都の石室上〕サテ、醫藥ノ道ハ、神皇產靈大神ヨリ初リ、大穴牟遲少彥名神ノ御受繼ナサレ、猶廣ク御撰ミ有テ、此御世ヨリ、萬國ヘマデモ、御傳遊バサレタル事ト見エマヌル、

〔奇魂一〕醫藥濫觴

醫道は、高皇產靈神、神皇產靈神に初て、伊弉諾命、伊弉册命に傳り、大己貴神、少彥名神に定たり、